



環境配慮報告書 2025

東京エレクトロン宮城株式会社

環境についての考え方

東京エレクトロングループはTechnology for Eco Lifeのスローガンのもと、最先端の技術とサービスで、環境問題の解決を目指します。あらゆる事業活動において、環境負荷低減と地球環境保全を目指し、さらに生物多様性にも配慮した環境活動により、持続可能な社会の実現に貢献します。

環境方針

東京エレクトロングループの環境方針を以下に示します。



1. 環境目標と継続的改善

環境目標を設定し、製品ライフサイクルの環境パフォーマンスを向上させるため、環境マネジメントシステムを継続的に改善します。



2. 法令等の遵守

環境関連の法令を遵守するだけでなく、環境問題を幅広く調査し、自主基準などを制定します。



3. 製品での環境貢献

最先端技術を駆使し、環境適合型製品を開発します。顧客や取引先と連携・協力し、環境問題の未然防止と改善に努め、持続可能な社会の実現に貢献します。



4. 事業活動での環境負荷低減

事業活動における環境負荷を定量的に把握し、その低減を含む環境活動を従業員と一体となって、積極的かつ継続的におこない、汚染の予防と環境保護に努めます。



5. 社会との連携・協力

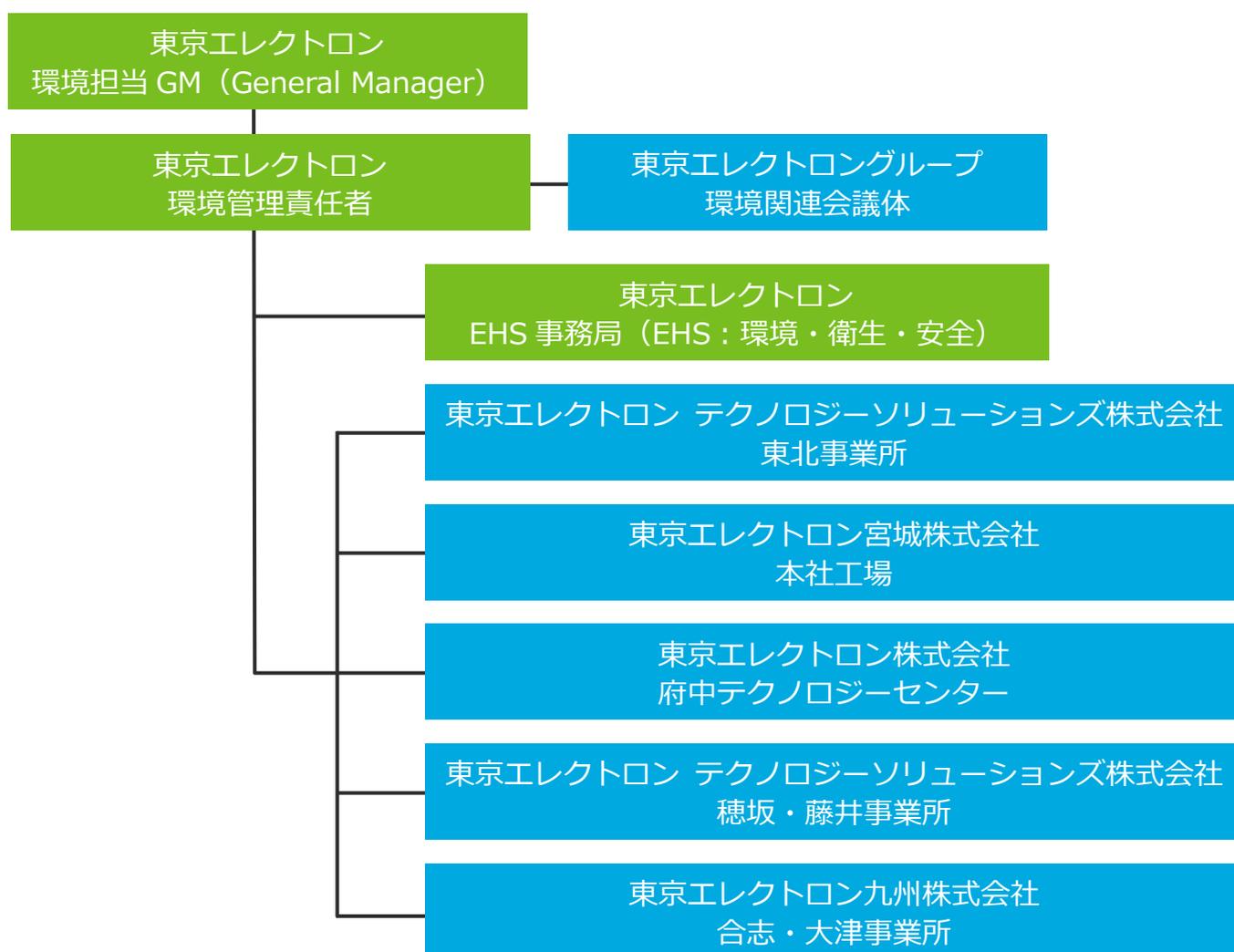
ステークホルダーとの共通理解のもと、連携・協力を推進し、その期待に適切に対応していきます。

2016年7月1日改訂

環境マネジメントシステム

ISO14001

東京エレクトロングループの国内事業所は1998年5月にISO14001の認証を取得し、2017年3月には一括認証に移行しました。これにより、下図に示す体制にて各事業所が集まって環境マネジメントシステムの対応方針を決定するとともに、グループ内で統一したフォーマットを使用した環境マネジメントシステムの運用をおこなっております。2025年度は外部機関によるISO14001の認証更新の年となるため下図に示すすべての事業所が外部監査を受ける予定です。



第三者保証

環境情報のデータ管理の精度向上や報告内容の信頼性向上のため、主な環境データ（エネルギー起源CO₂排出量、水使用量、特別管理産業廃棄物排出量など）について、第三者による保証を受けています。2025年4月に当社は第三者による証憑確認などの視察を受けました。

RBA

東京エレクトロングループは2015年にエレクトロニクス業界を中心としたサプライチェーンサステナビリティを推進する世界最大の業界団体であるRBA（Responsible Business Alliance）に加盟し、RBAが「労働」「安全衛生」「環境」「倫理」「管理システム」の5つの分野で定める行動規範の遵守にお取引先さまとともに取り組んでいます。RBA行動規範とはサプライチェーンにおいて労働環境が安全であること、そして労働者が敬意と尊厳を持って扱われること、さらに製造プロセスや調達が与える環境負荷に対して、企業が責任を持っていることを確実にするために策定されたグローバル基準です。

当社は2024年6月に外部機関によるRBAのVAP（Validated Assessment Program）監査を受け、5つの分野の行動規範において適正な管理と運用がおこなわれていることが認められ、最高スコアである200点を取得し、最高評価であるプラチナ・ステータスに認定されました。

環境配慮基本協定に基づく宮城県と大和町による立入調査

2024年9月3日に宮城県と大和町による環境配慮基本協定に基づく立入調査がおこなわれました。現地調査では第1および第2開発棟クリーンルームで開発評価機および開発現場の確認、生産棟クリーンルームで製造現場の確認、廃棄物倉庫で産業廃棄物の保管状況の確認がおこなわれました。また、水質汚濁防止法の特定施設である廃水処理棟や、大気汚染防止法の特定施設であるガス発電機およびディーゼル発電機の現地確認もおこなわれました。聞き取り調査では、ISO14001の認証と活動内容、環境法令の遵守状況や資格者の選任状況、東京エレクトロングループの環境目標と進捗の確認がおこなわれました。立入調査後に宮城県より、当社は自主的に環境配慮の取り組みを推進しており、良好な環境の保全に積極的に取り組んでいたとの評価をいただくことができました。

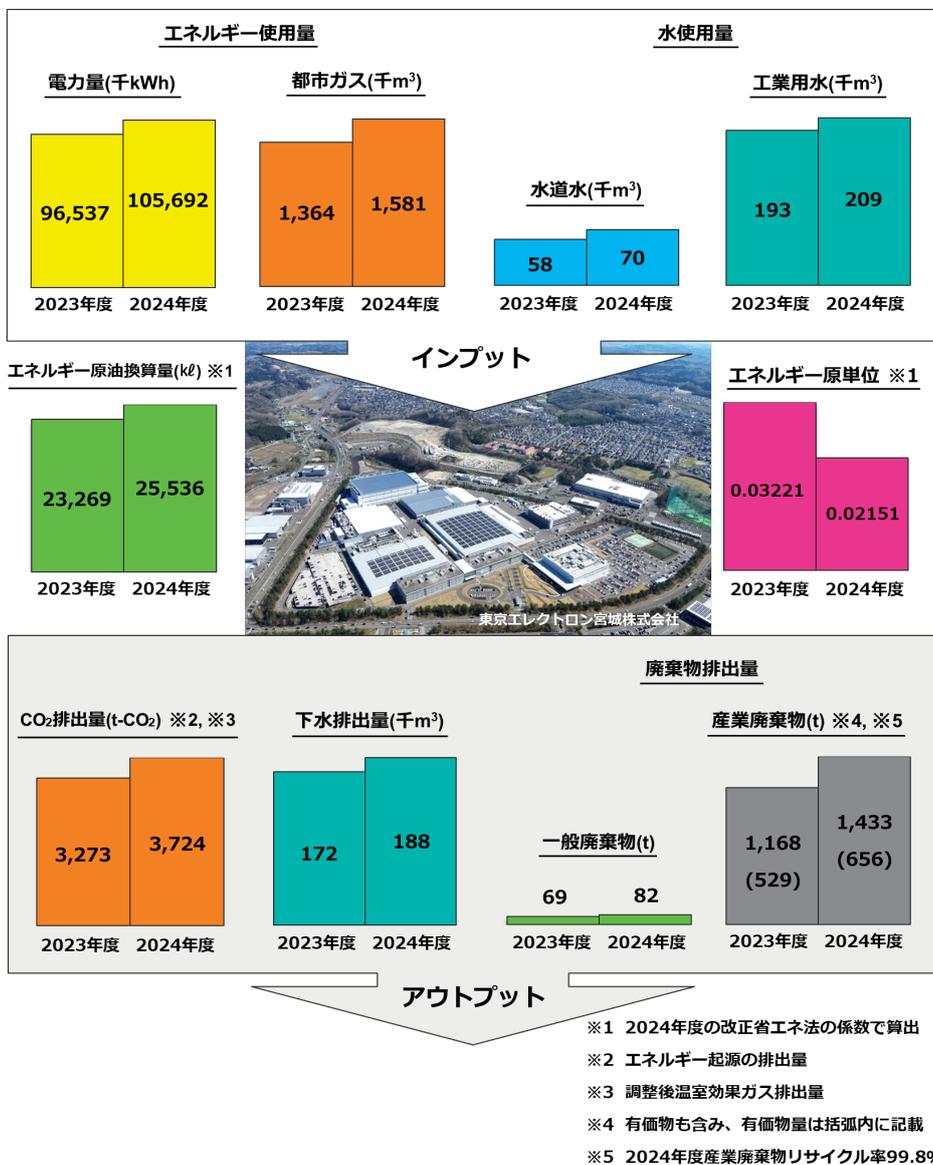
塩釜保健所による水質汚濁防止法に関わる立入検査

2024年11月8日に、水質汚濁防止法の特定施設である廃水処理棟と燃焼除害について塩釜保健所による立入検査があり、特定施設の設置状況や自主検査の結果、特定施設から排出される産業廃棄物の委託処理の状況などの確認がおこなわれました。立入検査で不備はありませんでした。

2024年度 東京エレクトロン宮城 環境データ報告

2024年度(*)の環境負荷・環境配慮についてご報告いたします。

昨年発足した Green Project による開発評価機の待機時温調機能自動停止による省エネ活動を継続しておりますが、開発体制の強化として評価機の増設と最新機への入れ替えもおこなったため、2023年度に比べて消費電力量は9.5%の増加、都市ガスの使用量は15.9%の増加となりました。一方で、生産台数も大幅に増加したため、エネルギー原単位は33.2%の減少となりました。2025年4月に第3開発棟が竣工いたしました。安全・品質・環境を優先とした開発はもちろん、デジタル技術活用による開発の高度化や高効率な開発オペレーションをおこないます。2025年夏には当社近くにある岩倉地区に Net ZEB(Zero Energy Building)対応した新生産棟の建設が始まる予定です。当社の掲げる2040年のネットゼロ目標達成に向けた事業活動をおこなってまいります。



*対象期間：2024年4月1日～2025年3月31日

環境活動

東京エレクトロンの森・大和 森づくり活動

2024年度も『みやぎの里山林協働再生支援事業』に参画し、従業員とその家族にも参加していただく形で大和町宮床の『東京エレクトロンの森』の森づくり活動を4月と11月におこないました。4月には参加者57名でオオシマザクラ8本、ヤマザクラ7本、キブシ10本を植樹しました。11月には参加者63名でミズキ8本、オニグルミ4本、ヤマブキ3本、マユミ4本、ケンポナシ8本を植樹しました。植樹のほかに森の整備のためにササの除伐、橋の補修、看板の設置もおこないました。2017年より大和町宮床での植樹活動を継続しておりますが、2024年4月の植樹活動では過去に植樹した木が成長して花を咲かせている姿を見ることができました。



Source:東京エレクトロン

東京エレクトロンの森・荒浜 森づくり活動

2024年度から「みやぎグリーンコーストプロジェクト」に参加しました。東日本大震災で失われた海岸防災林を復興させることを目的として仙台市若林区荒浜にて第1回目となる植樹会を6月におこない、従業員とその家族にも参加いただき、104名で0.40haの区画のうち0.10haにクロマツ150本を植樹しました。この区画を「東京エレクトロンの森・荒浜」と命名し、5年をかけてクロマツを植樹することを計画しています。



Source:東京エレクトロン

生物多様性活動 ヤギによる除草

ヤギによる敷地内の除草活動も継続しています。2022年度から除草をおこなっているヤギに継続して来てもらい6~7月に除草活動をおこないました。



Source:東京エレクトロン

食廃油のバイオディーゼル燃料化

社内食堂から排出された廃油をバイオディーゼル燃料（BDF）の原料とするために提供する活動も継続しています。2024年度は食堂廃油2,319ℓを提供しました。2025年4月には宮城技術革新センター内に厨房機器を導入し食堂をリニューアルオープンしました。食堂から排出される廃油が増加するため、さらなる廃油のBDF化を推進いたします。

デマンドレスポンス

2024年度は電力会社からデマンドレスポンスの発動要請が9月に5回あり、社内ガス発電機とディーゼル発電機を運転させることにより合計で17,987kWhの受電電力削減に協力しました。

産業廃棄物業者の視察

当社から排出される産業廃棄物の収集運搬と処分の委託を契約しているすべての業者の事業場や処分場の状況を確認するための視察をおこないました。産業廃棄物がどのような設備で処理され、どのようにリサイクルされているかを確認しました。視察で得た情報をもとに、当社から排出される廃棄物の処理の流れをまとめた資料を作成し、従業員向けに社内で公表しました。

東京エレクトロン宮城株式会社 環境安全企画推進部

〒981-3629 宮城県 黒川郡 大和町 テクノヒルズ1番

☎ : 022-346-3111 URL : <https://www.tel.co.jp/about/locations/tml.html> 発行 : 2025年6月